

2. 歴史

歴史的資源を、景観の骨格のひとつの要素としてとらえた場合、2つの方向から考えることができます。

1つは寺社や史跡などの資源それ自体を守ること、さらに、周囲のみどりなど景観的に優れているものを一体的にとらえて守る『古くて良いものを守っていく』という方向です。もう1つは街かどの石造物や、由緒のある場所、古い道などのもつ歴史的意味を伝えて景観づくりに活かしていく『埋もれているものを発掘し、つくっていく』という方向です。

ア. 特性

さまざまな歴史的資源がありますが、「目黒区の歴史的な景観の骨格をつくる要素」ということから考えると、以下のようなものが取り上げられます。

(ア) 坂道

- 本区は台地の部分と、目黒川などの河川によって浸食された低地とに分かれ、地形に起伏があるために坂道が非常に多くあります。坂道の中には、古くは富士山をも望める場所であったり、昔から名称がつけられ親しまれていたり、歴史的にも景観形成に寄与しています。
- 坂道は、平坦な道にはない印象深い景観をつくり出しています。

(イ) 街道

- 鎌倉街道、大山道、二子道など、中世から近世にかけて、江戸から鎌倉へあるいは大山への道筋の一部として、物資流通の道、寺社参詣を楽しむ道、軍事のための道と、さまざまに利用されてきました。街道は他の点的な資源と異なり、連続性のある、軸的、線的な歴史景観としてとらえることができる要素です。

(ウ) 河川・用水路と水車跡

- 河川は古代からその姿を次第に変えつつ、歴史を刻んできた資源であり、「街道」と同様、目黒の軸的、線的な歴史景観をつくる要素としてとらえることができます。



住宅地内の坂道(柿の木坂)



緑道として整備された河川(立会川緑道)



道端の庚申塔 (田道庚申塔)



歴史ある寺社 (八雲氷川神社)

- 目黒川と呑川の一部を除きすべて暗渠化されており、そのほとんどは緑道として整備されています。用水跡沿いには、古い時代の動力として重要であった水車の跡などの資源もあり、水系の軸的、線的な景観のなかに取り込んで、一体的に活かすことができる資源です。

(工) 庚申塔

- 庚申塔は道端にある小さな石造物ですが、区内には非常に多く存在し、一部では、何基もの塔がまとまって目を引くものもあります。これを「街道」のような軸的に展開する景観と一体的に考えていくことで、区を特徴づける景観として活用していくことが期待できます。

(オ) 周辺をみどりに恵まれた寺社

- 目黒区は豊富なみどりを境内地にかかえる寺社が多くあります。これらの寺社が集中し、みどりが十分に育っている目黒不動尊や円融寺周辺などは、遠くからも確認できるみどりのまとまりであり、面的に広がる歴史的な景観資源としてとらえることが期待できます。

(カ) その他点的に存在する歴史的資源

- 点在する寺社、樹林など、区内に点的に存在する歴史的資源は、それだけでは景観の骨格をつくることは難しいといえます。歴史的資源と (ア) から (オ) の各資源を相互に関係づけてとらえることで、歴史的な意味をもつ景観の骨格の一部として活かすことができます。

(キ) 「みどりの散歩道」・「めぐろ風景55」

- みどりの散歩道は、公園や歴史資源、坂や寺社等の要素を基に設定されているものが多く、区の歴史を活かす軸的な景観の1つとしてとらえることもできます。
- 「めぐろ風景55」は、区内の美しい街並みや風景、伝統的な行事などの中から、優れた風景を選定したものです。

イ. 課題

(ア) 坂道を活かした景観形成

① 主な街道 (鎌倉街道、大山道、二子道など) と一体となった景観形成

- 現在の街道は広幅員で、街道そのものの面影がないため、由来のある坂道であるということ

を、景観形成に活かすことができません。そこで、昔の重要な街道であったことと、由来のある坂道であることがあわせて分かるような景観形成を考えていく必要があります。

②寺社と一体となった景観形成

- 坂道に、寺社の参道的な役割や、みどりの散歩道などとしての役割をもたせ、歴史的意味を掘り起こすだけでなく、良好な景観形成に寄与するようなものにしていく必要があります。

③周辺の住宅地と一体となった景観形成

- 幅員や周囲の雰囲気などから、昔の面影を感じることで残っている坂が残っています。このため現在の雰囲気を壊さずに、坂道の由来や意味をよりわかりやすく知らせることによって、歴史的意味を持ち、かつ住宅地の中の道としてもふさわしい景観を形成していく必要があります。

④坂道からの眺望

- 坂を登りきった頂上には、古くは富士山などがみえる見晴らしの良い地点であったことを示すような仕掛けをする必要があります。

(イ)街道(「古い形状が残っている道」も含む)の存在の意識化

- 主な街道が通っていたと想定される場所は、現在ほとんどが広幅員の道路であり、周辺の環境にも昔の面影はほとんどありません。このため道のどこかに、かつてここが街道であったことを示すような工夫が必要です。唯一古い道の面影があるのは、道路線型が曲がって古い形状が残っているような部分ですが、そのような部分では、沿道で開発、整備が行われる際に、古道であることを人に知らせる景観整備が必要です。

(ウ)河川や用水跡を意識した景観形成

- 暗渠になっている河川については、河川を意識した整備をすることが必要です。
- 用水の跡についても、区の歴史を思い起こさせるため、用水跡であることが分かるような景観整備が必要です。

(エ)庚申塔

- 庚申塔は、それ自体は大きな景観の骨格の要素にはなりません、小さくても街かどのポイントになる資源です。街道、古い形状が残っている道、暗渠河川あるいは寺社などと一体的に取り込んで、魅力的な空間をつくるのに活用していく必要があります。

(オ)寺社と周辺のみどりの保全

- 一定の範囲に寺社等の歴史的資源が多く集まっている地域などで、良好なみどりの充実を図ることができる地域では、今あるみどりと歴史的空間のまとまりを守り、民有地のみどりを広げるように努力する必要があります。

(カ)その他点的に存在する歴史的資源

- 区内に点在する歴史的資源は、それらを保全・活用していく必要があります。

■ 図 I-2 歴史景観課題図

